

長野アールプス

N a g a n o A l p s

2018年9月号

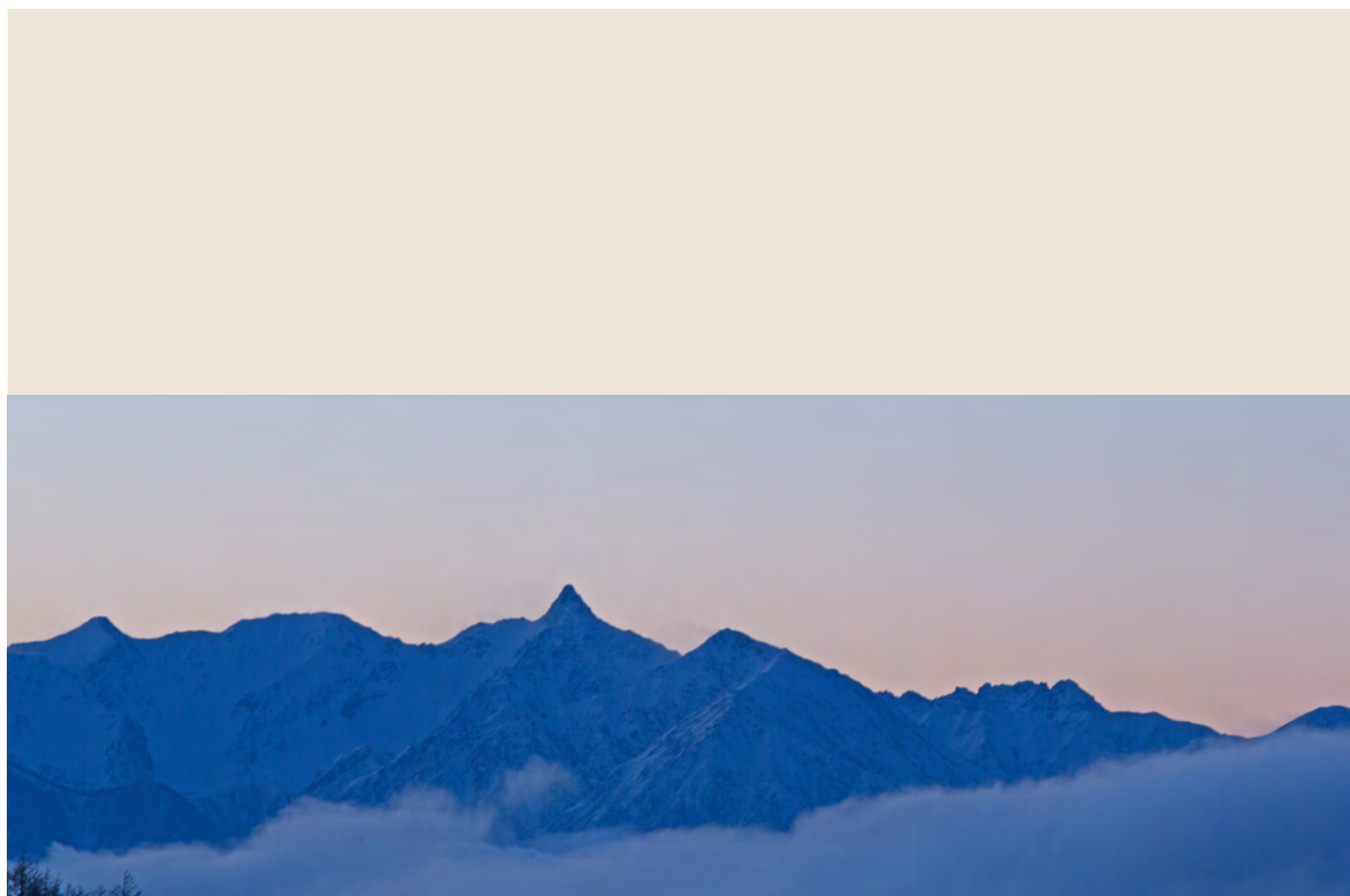


STS PROJECT

STS 地球環境蘇生会員内部参考資料

株式会社エステエスプロジェクト長野支局
〒381-2217 長野県長野市稲里町中央 1-15-25
TEL 026-285-0901 FAX 026-285-0902

7.22²⁰¹⁸ 地球環境蘇生セミナー報告



N a g a n o

長野

体験談



野回 繁利さん

元々、車が好きで、エンジン整備の仕事に就いていた。八木下さんの紹介で、プラズマSky（プラズマXとプラズマカイリのシステム）を導入した。

自分の車は、使用年数が経過しているの
で、摩擦や車への負担は大きいといえる。特に、首都圏は渋滞につかまること
が多く、そうなる
とエンジン内のラジエーター温度がすぐ
に高くなってしま
い、負担が非常に大
きくなる。参考まで
に、普段は80℃

をいただいた。うれ
しいオマケがたくさ
んありながら、環境
への貢献度も大き
い。素晴らしい商品
に出会えた。

◆情報伝達は
酸素が担う

ちなみに、今回のセ
ミナーに合わせ、関
東から長野県まで車
で移動したが、疲れ
ない、眠くならない
という体感も得た。



代表講演



半田 和憲

78%、酸素21%。情
報伝達は酸素におけ
る、電子エレクトロ
ンが担っている。真
空の環境であれば、
どんな大きな音も人
の耳には届かない。
つまり酸素が伝えて
いる。

光合成、風、熱、す
べて酸素の8つの電
子エレクトロンが、
私たち生態系の生命
というプログラムを
伝える触媒の役割を
している。体内の約
70%の水はその情報
をさらに伝えるため
に存在している。地
球も人もおよそ水の
量は70%。好気性で
あるか、そして酸素
が存在するかどうか
で、情報の伝わりは
根本的に違う。

では、酸素が無けれ
ば、一切伝わること
はないのか？酸素と
は違う側面から、水
素も情報を伝えてい
る。水素は原子番号
1番であり、中性子
がない。つまり、陽
子と電子のみ存在す
る。通常、この陽子
はプラスの性質を
持っているの、一
般的に水素はプラス
の要素となる。ここ
に同じプラスのもの
を持ってきて、水
素は逃げる。大気中
の多くのものはプラ
スの要素を持っている。
STSは、物理
学の4つの法則を利
用し、水素の空き部
屋に電子を一つ付け
ることに成功した。
(ハイドライド水素
化)
水には隙間があり、
その隙間に何をどう
入れるか？ここを考
えてきた。

私たちの体は、元素
でできている。
その数は23という説
があるが、私は35必
要だと考えている。
ハーモニーウォー
ター（以下HW）は
自然界に必要な元素
の数と合わせ、41の
元素に対してバイパ
スのような働きをす
るよう設計してい
る。

人の体は約70%が
水、水耕栽培ともい
える。水耕栽培は、
水の約60%の隙間を
利用するもの。有効
に利用するには、こ
こに35の元素をイオ
ン化して入れること
が鍵となる。

◆水の重要性

私の専門はエネルギー。水を燃やすと考えた時、ヒントとなったのは人の体の仕組みだった。

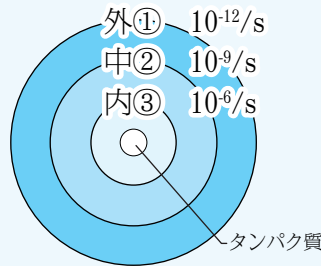
私達は、呼吸として大気中の酸素を取り込む。その酸素は血液中に運ばれ、ヘモグロビンに付く。ヘモグロビンは鉄であり、手が4つある。

4つの手に酸素が付く、体内に運ばれ、ミトコンドリアの元へ。そこでミトコンドリアは酸素のエネルギーを燃やす。燃やす時に、2種の分解酵素を発生させる。1つは酸素を使ったもの、もう1つは水素を使ったものである。分解酵素は生体電力となる。そこで、なぜ酵素が必要なのかと疑問をもった。酵素は全てアミノ酸でできている。このアミノ酸が

結合して、タンパク質となる。そしてタンパク質は窒素でできている。これを考えると、私たちは周りに存在する、水素、炭素、窒素、酸素を利用し、光合成により、タンパク質を作っている。この4種が生命活動の重要部分を担っている。

そこで、体内の約70%の水は、どこに存在するのか？何十兆というからだの細胞はタンパク質でできている。実は、タンパク質の周りには3層の水が存在している。一番外側の水は 10^{12} /Sの運動をしていて、一般的な水に近い。次に真ん中の水は 10^9 /Sであり、外側の水より回転数が遅く、寿命が長い。最後に一番内側の水は 10^6 /Sで、ゆっくりな動きでこ

の水が凍らない水である。この3層の水の総計が体内の約70%を占める水である。この凍らない水は、極寒の地でも凍らない植物があり、そこからヒントを得たと聞く。植物といえど、生き物は有機物。有機物はタンパク質でできている。



Skyシリーズの水はマイナス12℃まで凍らない。その点でも 10^9 /Sの水に最も近いといえる。

これは情報伝達に優れているということごと。この理論を目で見えるようにしたものが【NTプレート】である。13種の金属

元素を利用している。水がすぐ解けるという類似品は多々あるが、炎や高温に対して、必要以上に熱くならないという2面性が共存しているものはない。熱を電子に、電子を熱にという変換を可能にしている。この技術を液体化した物が、半導体塗料添加剤である。



NTプレート実験の様子

◆酸性雨から考える

現在のように、化石エネルギーを使い続けると、二酸化炭素が多くなる。その大気に触れた雨は、強

酸性の雨となる。この酸性雨(pH3.3・9)が土に染み入るとそこに存在する微生物はたちまち死んでしまう。

今や、めぐみの雨だけでなく、逆に植物を弱らせてしまう、そういう側面も持ってしまった。

この酸性に傾いた土の状況を改善させようと、簡単に石灰を利用するが、本来の力で中性にしている方法がある。農業は科学だ。

高知の山崎さんのハウスは、半導体塗料添加剤を上手く利用している。

例えば、100倍液をビニールに月に一度吹き付け、ハウスの支柱や、循環扇の羽に塗装している。

さらに、300坪のハウスに、16・5トンのHWを流し入れた。従来の農業なら、

根腐れなどが危惧されるが、団粒化構造が成り立っているの、水が余ることはない。

団粒化構造を作るバクテリアは、嫌気性。土の下20cm以下になると、酸素は存在しない。団粒化構造が成り立つと、水はけがよく、また必要な時には保水力によって補うこともできる。

言い換えれば、HWと同じような仕事をしている。これがエネルギー変換の法則。土の中でもそれは起こる。ちなみに、団粒化構造の土は、指を入れると暖かく感じる。こういったことから、団粒化構造が成り立っている、少々のことには負けない。

◆地球の動き

地球の核マントルはおよそ8000°C、そこから約100km先の地表に出てくるころには1100°Cとなる。地球の芯は鉄とニッケルできている。そして地球にはN極とS極が存在し、N極とS極へと一方向に流れ、磁束ができる。ここに磁石が発生し、電気が起きる。さらに、地球は自転と公転により、大きな発電機のような存在となっている。磁束から磁石、そして電気という繰り返しのうちに私たちは生きていく。地球自体に起電力が発生する。これが地球の引力、重力というもの。

自然のサイクル、人の体の構造を考えたとき、そこには揺るぎない法則が存在し





ている。その法則から外れると、必ず歪みを産む。

目には見えないが、私たちの手からも微量の電磁波が出ている。部屋の蛍光灯からも出ている。人は一人100Wの電磁波を持つ生き物。長野支局でも、室内に半導体塗装を施している。イメージでいうと、断熱材の厚みが倍増するような体感。外気との差が生まれ、結果、快適に感じる。この100Wのエネルギーが、

壁に当たり反射することを繰り返し、電子エレクトロンに変換している。寒い時は、人のエネルギーを熱に変えて、温度を上げようと働く。自分たちの工夫次第で、もっと快適に過ごすことができる。この考えで、農業にも応用すると、太陽光線を熱エネルギーに置き換えることができる。外気温に左右されることなく、育てることができるようになる。



◆ここから

私たちの身の回りでは起きていることは、全て原因と結果が対となって存在している。地球の成り立ちや、法則に反する行動はいずれ、私たちに困難として降りかかる。利益の追求は、今、生命よりも優先されているように感じる。

利益よりも、生命を優先し、そこを目指せば、必ず間違った動きにはならない。素晴らしい科学とテクノロジーを提供すれど、そこに携わる

者がどのような姿勢なのか。それによって左右される。日々の生活や環境によって、自分を作り出している。

存在が意識を決定し、意識が存在を決定する。

水が無ければ、情報が伝わらない。全国の会員数から見ても、長野県の会員数はダントツに多い。生命と科学に重きを置いた農業を中心とし、またここから長野の運動が再興するよう、期待している。

◆懇親会

セミナー後、長野支局内で懇親会が行われました。

31名が参加し、地元和食屋さんにご協力いただき、sky725を利用したお弁当を囲みました。

長野県在住の堀内博美さんより、現在大工さんであるご自身が建築中の自宅に、半導体塗料添加剤を利用している体験談を紹介していただきました。以前にも、渡辺とうふ店さんの工場に半導体塗料添加剤を利用した経験もあり、塗ったところからすぐに違ってくる。作業のスピードも全然違うと驚いていました。

また、ブドウ農家の佐藤健さんからは、代表のお話を聞く度に、作物へ利用するSTS製品が増えていく。今後も頑張る



たいと、お話がありました。

セミナー、懇親会と含め終始和やかな時間が過ぎ、新しい顔ぶれもありながら、会員さん同士の交流がいたるところで見られ、個から環へと変わりつつある印象でした。

これからの長野県を中心とした運動の再興を実現すべく、ここからスタートしたいと感じたひとときでした。

◆セミナー日程

◎時間 13:30~16:00 (受付 12:30~)

9月 2日 (日) 東京 場所 グランパークプラザ3F 301大会議室

9月 23日 (日) 兵庫 場所 TKP 神戸三宮カンファレンスセンター カンファレンスルーム5C

10月 14日 (日) 秋田 場所 秋田キャッスルホテル 4F 放光の間

編集後記

セミナー開催から少し時間が経ちましたが、良い内容をと作成に時間をかけました。皆さんの学びと運動に活用してください。